

169年6月21日

ただ今は、6月の月次祭、共々に勇んでつとめさせて頂きご同慶に存じます。梅雨の真っ只中ですがいいお天気で何よりでございます。

個人的には、私はこの6月が大好きでして、2日前に58歳の誕生日を迎えました。3日前は父の日でしたね。娘たちは、いつも誕生日と父の日を合わせてプレゼントをくれますので大好きな月であります。

ご命を頂きましたのでしばらくお話をさせていただきます。どうぞよろしくお願い致します。

本年1月には教祖120年祭がつとめられました。

そして、今年は教祖年祭の年として、特に真柱様からの「おちばを賑やかに」とのお声に、をやの思いに応えさせて頂くべく教内全体がおちばがえりに工夫してつとめさせて頂いている昨今であります。

大教会では「3万人おちばがえり」を提唱して下さっていましたが、おちばがえりする人が多くて早く3万人に到達してしまうと4月から「5万人おちばがえり」に軌道修正されました。今は「5万人おちばがえり」です。

毎日、おちばはとても賑やかです。特に土、日曜日は月次祭かと思うほどの参拝者で賑わっています。

今月25日には、大教会婦人会のおちばがえりがありますが、この日は教内全体でもおちばがえり団参がひとつのピークの日で、麴町大教会の1万人団参を筆頭にあちこちの大教会で団参を計画されておられるようで、11時と12時のおつとめで、東西南北の礼拝場には入りきれないのではないかと囁かれています。

さて、去年は、教祖百二十年祭三年千日活動の仕上げの年でありましたが、家内に身上を頂き、にをいがけ・をたすけに専念するというよりも我が家、我が家族、我が身のことに専念する年となってしまいました。皆様方にも大変ご心配を頂き、お見舞いに駆けつけて下さりありがとうございました。本人もとてもうれしく勇気付けられたと申しております。この身上は正に青天

の霹靂でありました。

3月に身上が分かり、4月に検査のため入院して、3週間に1回の抗癌剤治療を4回やって、8月に手術、手術後も同じく3週間に1回の抗癌剤治療を4回、そして12月末まで25回の放射線治療がありました。年末にやっと一連の治療が済んで、大晦日に元旦祭の準備を終えたときにふとお礼の参拝をさせて頂いてこようと思いついた。

南礼拝場の下で、専修科の同級生に出会う。芦津大教会の部内教会長で名張に教会があります。彼女は教会ふしんの借金と会長である主人の身上の中をたんのう一筋で通った人で、6年前には主人が出直して今は会長になってつとめている。泣くに泣けん道を通ってきているなんです。よく知っている人なんです。同窓会では幹事の一人なんです。その彼女が「私、おちばへ日参してんのよ」6月からやってるねん。3年間は続けようと思ってるねん」

「主人のお葬式に櫻井の大教会長さん来てくれはった」と明るく言うんです。「次男の結婚式にも来てくれはった」

大教会長さんが布教一課長の時に次男さんがそこに勤務していたからだとのことです。今は教化育成部に勤務されています。櫻井さんと縁があるんやね。

で、「よし、俺もやってみるか！」と、大教会から「3万人おちばがえり」提唱されているし…今年は家内の入院や診察でおちばへ帰ることが多かった。病院にやったら行くんやから。そうやなしに毎日、「ありがとうございます」と自主的に喜んで参拝させて頂くことが本当のおちばがえりや。

翌日、元旦の朝、下市分教会の10時からの元旦祭の時間までにおちばがえりさせて頂こうと車を走らせました。おちばに到着して南礼拝場に近づくと教祖殿での真柱様の祭文奏上の声がスピーカーから聞こえてきました。元旦祭が終わって教祖殿の儀だったんですね。今年初日のおちばがえりでした。

今年は徒歩参拝させて頂きたいと思っていた。

4月30日、徒歩参拝。谷さん母娘と一緒に。

「にいちゃん、どこいくん？」

「天理や」

「ふ～ん、飴持ってる？」

あんたはどこへ行くのか？何を目的に生きているのか？

7時間 45分。車で1時間で行くところ。

年祭は成人の一里塚

「一里塚」とは、織田信長が一里ごとに塚を築き、その上に榎や黒松を植えて、旅人の目印にしたのが最初らしい。

その後、徳川二代将軍秀忠が、東海道、中仙道、北陸道に一里塚を築かせている。

過去の年祭で、塚を築いてきたか。反省をしている。

「道」「お道」という。

道とは〇〇へ行くためにあるもの。目的地へ通じているもの。

世界の道はローマに続く。日本の道は、御所へ京へ続いていた。

一般的な見方 その1 (精神=道)

単なる技術の向上のために修行を行うのではなく、修行することによって精神を修養し人間完成として道がある。

そのため、従来の～術を～道へと改名されるようになった。

明治以前まで術といわれていたものが、嘉納治五郎の柔道の命名により影響を受け、それ以降～道と改称された。

一般的な見方 その2 (理想=道)

道というのは、理想であって遠くにあるものである。したがって、常に道に近づくように努力すればよい。

私たちが通っている「お道」は「陽気ぐらし世界」へとつながっているもの。教祖が教えてくださった「陽気ぐらし世界」への道である。

道の本来の意味

誰でもその道路（道）を歩けば、同じ目的地に着くのである。

それは教祖のお通りになった「ひながたの途」を歩むことだと悟らせて頂く。
ひながたを通れば陽気ぐらしができる。

会長夫婦身上（脳梗塞と乳癌）です。最近の流行をいく病気えある。その中を私たちはどのように「塚」を築き、我が教会や我が家族が後からついてきてくれる人たちの目印になるような塚となるようなつとめができるか？道を求めて通らせて頂きたい。

ひながたの途を求めて通らせて頂きたいと願っている。